

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	音声学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	二年次		学期及び曜時限	通年 月曜1限 他	教室名	405教室
担 当 教 員	安齋 有紀	実務経験と その関連資格	島根大学法文学部准教授。フランス語および言語学関連の授業を担当。言語の音声、音響的特徴に関する研究を行っている。 博士(言語学)。2014年4月より言語聴覚士学科で音声学・音響学の授業を担当。			
《授業科目における学習内容》						
音声学・音韻論の基本的知識を通して日本語の発音の特性を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【教科書】「日本語の発音教室」くろしお出版						
《授業外における学習方法》						
授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 教科書・配布資料を見直し、次回の授業までに必ず復習をすること。						
《履修に当たっての留意点》						
音声学の知識を習得するには実際に発音して感覚をつかむことが大切です。授業中は積極的に声を出し、授業外でも発音の実践をしてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声学の分野では具体的に何を学ぶのか、通年学習の見通しを立てることができる。	教科書、配布資料	教科書の目次と第1章の冒頭に目を通しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	音声学とは・ことばの機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体構造としての発音器官を知り、発音のメカニズムを理解できる。	教科書、配布資料	教科書・第1回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次回の授業までに実施すること。	
		各コマにおける授業予定	発音器官・発音のメカニズム			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	母音の発音方法から5母音の分類基準が理解できる。	教科書、配布資料	第2回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次回の授業までに実施すること。発音の実践をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	母音(1):母音の発音と分類基準			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語の母音発音時に生じる様々な音声現象が理解できる。	教科書、配布資料	第3回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次回の授業までに実施すること。発音の実践をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	母音(2):日本語に特徴的な母音発音時の音声現象			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	子音の分類基準、IPAの読み方(記号)が理解できる。	教科書、配布資料	第4回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次回の授業までに実施すること。発音の実践をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	子音(1):子音の分類基準と調音			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	破裂音、摩擦音、破擦音の調音構造が理解できる。	教科書、配布資料	第5回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次の授業までに実施すること。発音の実践をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	子音(2):破裂音、摩擦音、破擦音		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	鼻音、接近音、はじき音の調音構造が理解できる。	教科書、配布資料	第6回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次の授業までに実施すること。発音の実践をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	子音(3):鼻音、接近音、はじき音		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	特殊音素の調音構造が理解できる。	教科書、配布資料	第7回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次の授業までに実施すること。発音の実践をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	子音(4):特殊音素(撥音、促音)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	母音、子音の調音を通して日本語の音素体系を総合的に理解できる。	教科書、配布資料	第8回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次の授業までに実施すること。
		各コマにおける授業予定	音素体系		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語の基本的な韻律単位である「拍」と発音の関係について理解できる。	教科書、配布資料	教科書第2章の冒頭を読んでおくこと。課題が出された場合は次の授業までに実施すること。
		各コマにおける授業予定	リズム(1)拍とその種類		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語に特徴的な2拍リズム(フット)が理解できる。	教科書、配布資料	教科書・第10回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次の授業までに実施すること。
		各コマにおける授業予定	リズム(2)フット		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語の音節構造を理解し、音節数のカウントができる。	教科書、配布資料	教科書・第11回の配布資料を見直し、復習をすること。課題が出された場合は次の授業までに実施すること。
		各コマにおける授業予定	リズム(3)音節構造		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の学習内容を総合的に理解し、実践的に問題が解ける。	教科書、配布資料	前期の内容を総合的に復習すること。練習問題の見直しをすること。
		各コマにおける授業予定	前期のまとめ・復習問題①		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前期の学習内容を総合的に理解し、実践的に問題が解ける。	教科書、配布資料	前期の内容を総合的に復習すること。練習問題の見直しをすること。
		各コマにおける授業予定	前期のまとめ・復習問題②		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前期に学習した基本的な知識をテストで応用できる。	教科書、配布資料	前期の内容・練習問題を総合的に復習し、試験で応用できるようにしておくこと。
		各コマにおける授業予定	確認テストと解説		